



# 正義の声は消えない

フリードマン作 渋谷弘子訳 ちょうぶんしゃ 汐文社

第二次世界大戦が迫るドイツ。ヒトラー青少年団としてナチ党大会に参加したハンスは疑問を感じた。ヒトラーへの絶対服従を強制され、ユダヤ人作家の本を読むことも、自由に歌うことも禁じられたのだ。ハンスは地下組織の活動に関わるようになる。命を救う医学生になったはずが、命を奪うナチスを黙認していることに矛盾を感じたハンスは、仲間とともに反ナチスのビラ、「白バラのビラ」をばらまいた。良心に従い、ことばの力でナチスに抵抗した若者たちを描く。

